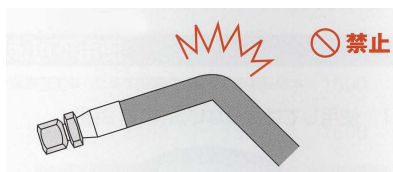


テフロンホース製品のお取り扱いについて

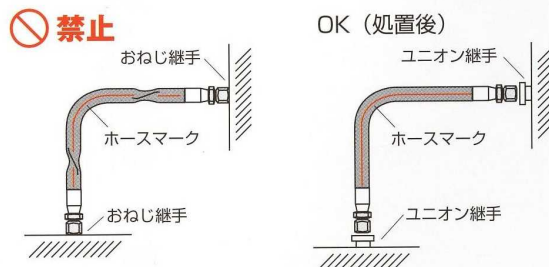
1) ご使用において

- ①. テフロンホースアセンブリ(以下ホースアセンブリと表現)を配管接続される場合、ホースアセンブリにねじれが掛からないように注意して下さい。
- ②. ホースアセンブリは、内圧に耐えることを主眼として設計しております。そのため負圧又は外圧をかけると「内面層はく離」や「つぶれ」がおきる恐れがあり、寿命が極端に低下することになります。負圧については、別に設定しています。
- ③. ホースアセンブリは、通電させないで下さい。「破損」や「感電」の恐れがあり危険です。
- ④. 過度の振動をかけないで下さい。過度の振動がかかると、ホースアセンブリの継手金具に疲労亀裂が発生し「漏れ」や「破裂」などに至り、危険です。
- ⑤. ホースアセンブリは、加圧したときに長さが変化しますので、ホースに余裕がなかった場合、張力が発生し、ホースの「破損」や継手金具の「抜け」などに至り、危険です。
- ⑥. ホース本体に(特に継手金具付近)に無理な曲がりを与えないよう配慮して下さい。無理に曲げてホースが折れてしまうと、折れた部分で「破損」し、危険です。一度折れたホースは、変形が残っておりますので使用しないで下さい。

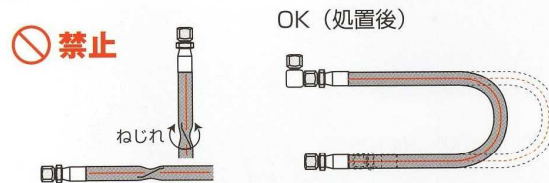


- ⑦. ホースアセンブリを引っ張らないで下さい。引張りがかかった場合、継手金具の取付部などに応力が集中し、「抜け」、「破損」などに至り危険です。
- ⑧. 加圧中のフレキや継手金具に不用意に近づいたり、触れたりすると、ホースアセンブリや継手金具が突然破損した場合、流体などが飛散して危険です。また、流体が高温や低温の場合には「やけど」の恐れがありますので、ご注意下さい。
- ⑨. 手直し、修理及び改造はしないで下さい。ホースアセンブリの破損や継手金具の抜けに至り危険です

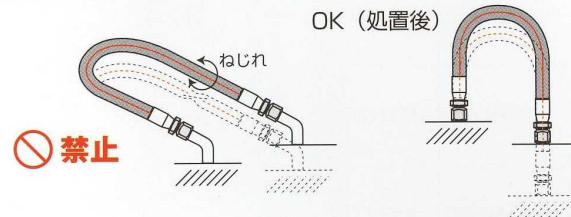
例1) 継手のねじタイプによるねじれ



例2) 三次元に曲げたときのねじれ



例3) 一端が移動するときのねじれ



注意 ホースアセンブリを外傷から守って下さい。ホースアセンブリが、他の物体(機械、設備など)に接触する可能性がある場合、外傷からホースの「破裂」や継手金具の「破損」に至る恐れがあり、危険です。次の例を参考にして、適切な処置を講じて下さい。

例1) 状況 鋭角なものにホースが当たっている場合。
処置 クランプ間隔を短くして接触を防いで下さい。



例2) 状況 ホースが接触している場合。
処置 治具等で接触を避けて下さい。

